

～学びあい、支えあい、

地域が輝くまち・千葉市を目指して～

# 第4次千葉市生涯学習推進計画

## 計画策定の趣旨

少子高齢社会の進展、人口減少社会の到来、地球温暖化の進行など社会情勢や本市の財政状況が変化しております。そこで、本市を取り巻くこれらの環境の変化や第3次千葉市生涯学習推進計画の成果と課題を踏まえ、本市が今後、生涯学習振興行政を展開する上での目標や施策の方向性、事業体系を明らかにするため、「第4次千葉市生涯学習推進計画」を策定しました。

## 生涯学習振興行政の現状と課題

### 第3次計画による成果と考えられるもの

- 学習支援施設での講座等の参加者数は増加  
(17年度 119,689人→21年度 220,091人)
- 地域活動へ参加する市民の割合が高い  
(千葉市 11.2% 全国 6.9%)
- 小学生の親の地域活動への参加割合は増加  
(16年度 17.2%→21年度 22.6%)
- 図書館サービスや学習支援施設の整備の満足度が他の施策より高い  
(学習支援施設整備についての充実を感じる市民 34.5%、  
図書館サービスについての充実を感じる市民 29.6%)

### 第3次計画での課題と考えられるもの

- ライフステージに応じた施策展開が十分でない  
(ライフステージに応じた学習機会の充実を感じる市民 15.4%)
- 地域活動への将来の参加意向は減少  
(千葉市全体 16年度 23.8%→21年度 17.5%  
うち小学生の親 16年度 18.8%→21年度 14.0%)
- 学習成果活用の支援が十分でない  
(学習成果活用の支援の充実を感じる市民 12.3%)
- 地域づくりを支える組織への支援が十分でない  
(地域づくりを支える組織への支援の充実を感じる市民 12.1%)
- 情報提供の充実への要望が増加  
(情報提供の充実を要望する市民 16年度 36.6%→21年度 41.7%)

### 生涯学習市民意識調査から見る学習活動の傾向

- 全世代で「健康づくり・スポーツ」、「趣味・けいこ事」への参加意向が高い
- 世代等により学習活動への参加意向に特徴がある  
20～44歳の年代…「職業上必要な知識・技能・資格取得」  
45～54歳の年代…「ボランティア活動・地域活動」  
「学術・教養」  
未就学児の親…「家庭生活に役立つ技能」「育児・教育」
- 学習活動の情報源は、「市政だより」が中心であるが、20～44歳の年代では「パソコン（インターネットなど）」も重要な情報源

### 千葉市の社会状況

- 将来人口は、平成27年に約97万人に達した後、人口減少に転じる見通し
- 高齢化率は、平成27年に25%を超え、本格的な超高齢社会を迎える見通し
- 県内随一の人口規模と産業集積を有し、県内の交通の要衝でもあることから、環境負荷は大きい
- 急速なグローバル社会の進展は、市民の雇用環境や地域文化の独自性にも影響を与えている
- NPOやボランティアなどの公共活動をつなぐ横断的連携体制が十分に構築されていない

このような状況を踏まえ、新たに第4次千葉市生涯学習推進計画を策定しました

# 計画の目標

## 市民相互のふれあいによる学習活動を通して、新たな可能性と価値を生み出す地域づくりを推進する ～学びあい、支えあい、地域が輝くまち・千葉市を目指して～

【計画期間】 平成23年度～平成27年度（5年間）

千葉市基本構想では、「市民が個人の関心や適性、意欲に応じていつでも学び、楽しみ、活動の輪を広げていくことのできる機会」、すなわち学習機会の提供などを行うことや、「仕組みを整える」、すなわち学習環境の整備などを行うことによって、市民相互の「様々な交流」が生み出されることがうたわれております。

また、今後の千葉市にとって、社会教育関係団体などの「多様な主体の連携」により、まちづくりを進めていくことが重要です。

これらを踏まえ、第4次千葉市生涯学習推進計画では、千葉市基本構想の「様々な交流」、まちづくりを進める「多様な主体の連携」を「ふれあい」という言葉で表現し、市民の学習活動への支援に当たっては、この「ふれあい」の視点を大切にします。

また、第4次千葉市生涯学習推進計画では、ふれあいによる学習活動が「社会全体の健全な成長の源泉」となり、「新たな可能性と価値を生み出す地域づくり」を目指します。

方向性1  
学習成果が「生きる」  
地域づくりを進める

市民一人ひとりが豊かな人生を送るために、そして、それぞれの地域が輝くために、何より学びの成果が「生きる」ことが重要であることから、「学習成果が『生きる』地域づくりを進める」を施策展開の方向性の第1の柱として位置づけます。

### 施策展開の方向性

方向性2  
市民生活や地域社会  
の課題を「学ぶ」機  
会を提供する

学習成果が地域で生きる仕組みを構築するためには、その基盤となる学習機会の提供が必要であり、「市民生活や地域社会の課題を『学ぶ』機会を提供する」を第2の柱として位置づけます。  
千葉市の抱える様々な課題を情報発信するほか、市民生活や地域社会の課題を学ぶ講座を開催するなど、市民一人ひとりが将来のまちの姿を考え、地域づくりにかかわるきっかけづくりを行います。

方向性3  
学びを「支える」環  
境づくりを進める

学習成果が地域で生きる仕組みを構築するためには、その基盤となる学習機会の提供とあわせて地域活動や学習活動を進めるための環境整備が必要となるため、「学びを『支える』環境づくりを進める」を第3の柱として位置づけます。  
施設の管理や整備、備品などの機材整備、学習活動を支援する相談事業などを行い、市民一人ひとりの学習活動や地域活動を支援します。

## 重点事業

教育委員会及び市長事務部局で実施される304事業を体系化し、生涯学習振興行政の一層の推進を図ります。その中でも、特に教育委員会が中心となって実施する事業の一部を重点事業として位置づけます。

### 社会教育関係団体活動の促進



社会教育関係団体が実施する各種学習事業の活動を支援することにより、市民の自発的な学習活動を促進します。

### 放課後子ども教室推進事業



小学校の施設を活用して、放課後の子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の多様な人々の参画を得て、さまざまな体験・交流活動を実施します。

### 子育てサポーター・家庭教育アドバイザー事業



子育てサロン「子育てママのおしゃべりタイム」を運営し、子育てサポーターや家庭教育アドバイザーが相談に応じ、子育て仲間づくりを支援します。

### 公民館主催事業（現代的課題学習）



公民館において、現代社会の問題解決を目的とする学習機会を提供します。

### 生涯学習センター・生涯学習に関する講座、講演会などの開催事業（ちばカレッジ）



生涯学習センターにおいて、市民・郷土意識をはぐくむため、千葉の歴史や文化などに関する学習機会を提供します。

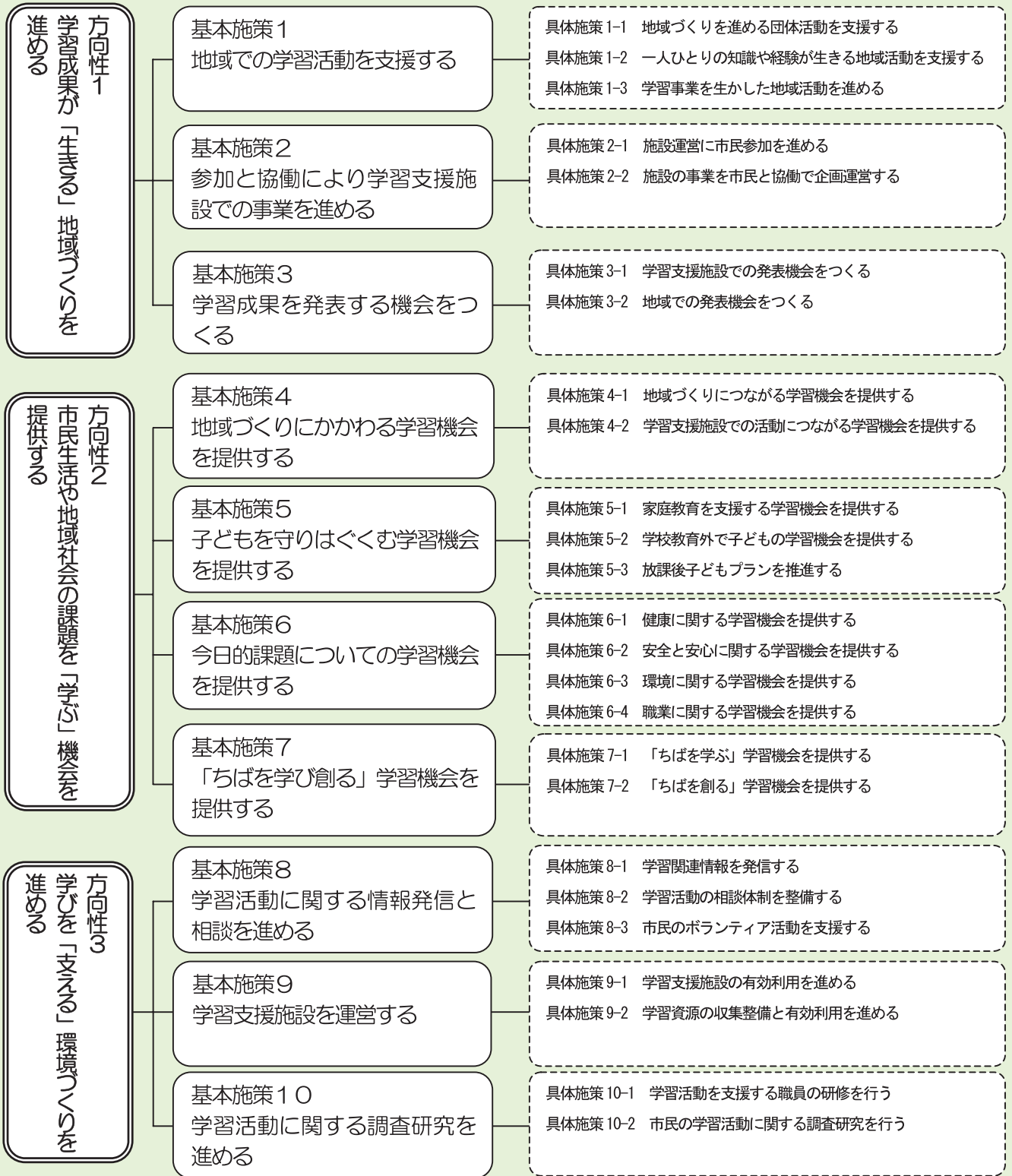
### インターネットを活用した学習情報の提供



学習情報のインターネットでの提供を行います。



# 施策体系図



第4次千葉市生涯学習推進計画 ～学びあい、支えあい、地域が輝くまち・千葉市を目指して～ 【概要版】

発行：平成23年3月

編集・発行：千葉市教育委員会事務局 生涯学習部 生涯学習振興課

〒260-8730 千葉市中央区問屋町1-35 千葉ポートサイドタワー11階

電話 043-245-5957 ファクシミリ 043-245-5992

<http://www.city.chiba.jp/kyoiku/shogaigakushu/shogaigakushu/>